青山学院初等部

人と社会のために尽くす サーバント・リーダーを育成

初等部　部長　小野 裕司

青山学院初等部のすべての教育の根底に流れているのがキリスト教教育、すなわち「神さまから与えられた賜物」を生かす教育です。教育とは、その文字の通り「教え育てる」ことです。ただ教えるのではなく、子どもたちが自ら学び、体得し、成長していく、そうした「人間力」を培う教育を作り上げていこうと、全校を挙げて取り組んでいます。

サーバント・リーダーとして世のために尽くせる人へ

青山学院のスクール・モットーは「地の塩、世の光」です。「あなたがたは地の塩である。塩の働きで働きなさい。あなたがたは世の光である。世の光として働きなさい」という聖書の一節から採られたものですが、それを、教育の具体的なイメージとして表したのが「サーバント・リーダー」という言葉です。

小学校の教育に落とし込んでいくと、6年生はリーダーであるけれども、1年生が気持ちよく過ごせるようにたくさんのお手伝いをしたり、宿泊行事のような縦割りのイベントなどの際には、下級生のサポートを行ったりする。そのように、リーダーとして主導的な立場に立つだけでなく、みんなのため、ひいては社会全体のために尽くせるような人に育ってほしいという願いが込められています。

先導的な改革への取り組み

本校の子どもの一日は、礼拝を守ることから始まります。キリスト教精神を体で享受してもらうために、毎朝の礼拝や宗教の授業、各種行事を通じて神さまからの恵みに感謝します。

初等部では開校以来、先導的な改革に取り組んできました。1965年にランドセルを廃止し、1972年には週5日制を導入しています。この根底には「今のままで本当にいいのか」と絶えず問題意識を持って教育と向き合ってきたことがあります。

教育は、学校と家庭が車の両輪のように連携しなければ、子どもたちはまっすぐ育ってくれません。家庭には家庭の教育があり、学校では教えられない大切なことがたくさんあります。本校がいち早く5日制を採り入れたのも、家庭に時間を返そうという発想からです。

学校と家庭の連絡はしっかりと行います。学校の様子を知っていただけるよう、保護者の方には、都合のよい時に授業参観に来てくださいとアナウンスしています。また、通信簿の代わりに『成長の記録』を採用し、日常の評価を大切にしながら、個に合った指導を行っています。

この『成長の記録』は、児童がまず自分でその学期の成長を評価し、その次にどういう目標を立て、どうしていけばよいかを子ども自身に書き込んでもらうという、PDCAサイクルを用いた「一人ひとりの学習プラン」です。それをもとに、三者面談として学期ごとに保護者と教師、子どもが話し合い、その先のことをていねいに考えていきます。

ここで主眼としているのは、子どもたちの自己肯定感を高めるということです。達成できなかったことを振り返ることは大切ですが、『成長の記録』では5項目にとどめています。その代わり、次の学期で努力すべきことを3つまで、優先順位をつけて挙げてもらうと、子どもたちは自分が次に何をしなければならないのかをきちんと理解していて、驚かされます。学期内に自分はこれだけ努力し、これだけのことを達成できた、と正しく評価するとともに、反省するところはきちんと反省する。それは子どもたちの自我の発達にとてもプラスになりますし、「問題解決能力」を養う上でも大切な勉強となっています。

ラグビー部「コアラーズ」

雪の学校

洋上小学校

個を生かす教育と活発な自発的活動

クラス担任による国語・算数・社会・生活の各教科では、児童の個性・適性に配慮し、学級を少人数のグループに分けた活動も行っています。理科・音楽・図工・体育・英語などの専門教科は、戦後間もない時期から、その教科に卓越した専科教員が担当しています。

本校が創立当時から行っている英語教育は、青山学院独自の英語教科書『SEED BOOK』を使用して、高等部までの12年間一貫教育を実践しています。希望者には夏休み中のオーストラリア・ホームステイやイングランド・サマープログラム、春休みのフィリピン訪問など、国際交流の機会もあります。

低学年では国語も算数も、手や身体を使った勉強を重視しています。3年生からは、各教科でタブレットPCを文房具の一つとして活用し、キーボードによるタイピングを基本としています。また、企業とタイアップしたプログラミング教育も実施しています。

校舎は、1年生から4年生までを低・中学年棟、5・6年生を高学年棟に分け、近い学年同士の行き来がしやすいよう配慮しています。また、1年生と6年生、1年生と2年生がペアを組み、上級生が下級生の面倒を見るパートナー制度の取り組みも行っています。教室のウッドデッキを利用して、両学年がお互いの教室に出入りしやすいよう工夫した造りにしていることも大きな特徴です。

本校では教科学習にとどまらない自発的な活動も盛んです。5・6年生全員が参加する「総合活動」では、働くことを学ぶ時間として、宗教や保健、環境、給食、放送、新聞、運動など15のプロジェクトに分かれ活動しています。「SDGsプロジェクト」では、2021年のスタート時に小泉進次郎環境大臣（当時）からオンラインで学んでもいます。また、11のクラブ活動があり、日本で最も古い小学校ラグビーチームの一つ「コアラーズ」をはじめ、月1回の走行会で街を走る自転車クラブもユニークです。聖歌隊やハンドベルクワイアなど礼拝で奉仕をするクラブもあり、3年生以上の登録率は95%を超えています。

体験から得た感動が子どもたちを成長させる

本校の教育の大きな特徴の一つと言えるのが、6年間で50泊以上の宿泊行事です。1年生の「なかよしキャンプ」に始まり、2年生の「農漁村の生活」や3・4年生の「山の生活」、5年生の「平戸 海の生活」、3年生から6年生までが全員参加する学年縦割り生活の「雪の学校」など、自然の中での集団生活によって、思いやりと信頼の心、生きる力と行動力を養い、どんな環境でも自分を見失わずに活動できる人間力を培います。

そして、6年間の集大成とも言える取り組みが、1972年に始まった「洋上小学校」です。6年生が全員参加し8泊9日の航程で「小さな乗組員」として航海体験する伝統の行事です。船内活動や寄港地などでの活動を通して自然と人との関わりの大切さを学ぶことが目的です。青山学院大学の学生は震災直後から東北に入ってボランティア活動を続けていますが、洋上小学校でも今年初めて宮古を訪れ、地元の小学校の子どもたちと交流し、かけがえのない経験を得ることができました。

こうした行事のすべてに共通して言えるのが、「学校だけが学びの場ではなくて、子どもたちがいるところが『学校』であり、そこで子どもたちと関わるすべての人が先生なのだ」という考えです。本校の教育は、「神さまから与えられた賜物を生かす」ことを根底に置いています。その「賜物」とは、その人だけが持つ力のことであり、それを他の人のために使うことが「個を生かす教育」に結びついています。青山学院の中等部、高等部、大学、大学院とつながる一貫教育の中で、次代を担うサーバント・リーダーを育成したいと考えています。

〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25　TEL 03-3409-6897　https://www.age.aoyama.ed.jp/